

友 林 蘇 岐

目 次

日白兩大學生成績比較	西野 入 徳
森林火災保険につき	田 中 榮 一
貴族富豪の林業經營方針に 關する私儀	松 澤 敏 男
國友錄其他	越 畔 山 人
早春の憂鬱	三 原 忠 一
修學旅行記	
叢報	
林友會便り	
謝恩金募集	
編輯消息	

目白兩大學生成績比較

日本人成績白人よりも良好
在ワシントン大學 西野 入 徳

昨年度華州大學新入生全部の一年間成績を調査し更に其中日本人學生のみの分を再查比較したるに左の如き結果を得たり

學科別	平均點數 (標準百點)	日本人の白人 に優る點數
數 學	日本人 九五 白人 八〇	十五
歴 史	九五 八四	十一
專門學科應用科學	八六 八〇	六
社 會 學	八三 八〇	三
外 國 語	七九 八二	三
英 語	七一 八二	十一
總 平 均	八三 八一	二

學の法廷に於て日本人の白人より優秀なるを證されたる以て吾等は白人の言に頓着なく大に自重して可なり、さりながら吾等は是によりて決して傲慢とならざる様注意せざるべからずか、る優秀なる頭腦を我が大和民族の上に恵まれしは將來大和民族が世界人類の幸福を永遠に保持増進する事に向つて大に貢獻するの責務ある事を暗示するもの、如し

天の將に此人に大任を下さんとするや先づ其心身を空乏ならしめ盤根錯節の間に試練を加ふ、民族の場合又然り、天の時に大任を一民族の上に下さんとするや内に外に幾多の困難を送りて以て之を試練す、か、る困難試練は將に將に來らんとする大なる榮光の豫兆なり、我が櫻花民族が世界到る處に罪なくして十字架を負はせらる、所以のものは實に天よりの重任を依托せらるゝの前兆なり否依托せられつ、あるの證據なり實に不義非道のアメリカ排日必竟天よりの試練の一なり、されば吾等は是れに意氣沮喪す、事なく我が民族の使命を思へ、夫を望み地を耕し忍耐と努力とを以て最後迄たゝかはざるべからず、正義は最後の勝利者なり、終迄忍ぶものは遂に救はるべし、吾等は代々の岩なる天の御神に我等の心をつなぎて最後迄戦はざるべからず自重自愛せよ大和民族彼岸に輝く榮光の冠を望みつ、現在の苦境を雄々しく切り抜けよ敷島の大和櫻兒。

森林火災保険につき

田中榮一述

緒言

保険とは、財産又は身体に關し偶然に生じて且つ豫知すべからざる危険に遭遇し、之によりて生ずる一個人の損害を未だ其損害を被らざる多數人に分配して、これを賠償せしむる制度にして、その目的は避く可からざる危険に遭遇しこれによりて被ることある可き損害を回復し若しくは軽減するにあり。

蓋し人の世にあるや、種々なる經濟上の損害より免かる、こと能はず、又到底死亡せざることを能はず、而して人が遭遇することあるべき種々なる經濟上の損失に付いて考ふるに、是等の損害の中に或ものは豫防の方法を用ふることを得るものあり、例へば、火災に關しては、屋主制限の制を定め建築規則を發布する等、成る可く火災發生を少なからしめんとする方法あり、海難に關しても、航路標識の制あり船舶規則の制定あり、而して若し此等の災害が、豫知する能はずして發生する場合に於ても、尙其損害の程度を最小限度に抑壓すべき方法あり、例へば、火災にありては蒸氣ポンプの設備あり、水道防火栓等消防の設備あり、海難にありては水難救済の制あるあり、而して又人は到底死亡より免かる能はずと雖も、然も尙其死亡を成る可く豫防し抑壓す

る方法なしとせず、例へば、種痘検査の方法によりて病毒の發生を豫防し、交通遮断焼拂ひの方法により、一旦發生したる病毒の延蔓を抑壓する方法あり、斯の如く經濟上の損害を與ふる火災海難に關して豫防抑壓の方法あり、又人の生命に關しては成るべく人の死亡を豫防し抑壓する方法あり然れども今日の人智を以て設けたる豫防抑壓の方法のみにては、到底、火災海難を防ぐ能はず又死より免かる能はず、而して火災により所有者の商品工場若しくは住宅を失ひ、海難により船舶貨物を失ひたる場合にありては、其人は經濟上甚だき損害を蒙り、再び起ちて其位置を回復する能はざるに至ること多かるべく又多數の人を扶養せしむる主人が一朝病の爲めに死亡せんか妻子は路頭、迷ふ憂ひあり、是等の場合に豫防抑壓の方法のみにて安んずる能はず、豫防する能はず抑壓する能はずして蒙りたる損害、若しくは死亡に關し人は善後の策を講せざる可からず、これ保險制度の起る所以にして、森林に就て見ると森林火災の豫防抑壓には種々なる手段ありと雖も、尙且つ豫防する能はず抑壓する能はざる災害の起るを豫期せざる可からず、かゝる場合の救済方法として保險は最も良好なる手段なりとす。

斯の如く、保險は豫防抑壓する能はざる事故の發生に對して善後の策を講ずる方法にして、其本旨は消極的の理由に基くと雖も之れあるが爲に後援を得て背後を安からしむるものなり、故に發達したる人生にありては、殆んど欠く可からざる組織なること更に喋々するを要せざるべし。

△森林火災保險の必要

近年森林の乱伐は年と共に加はり、植林の之に伴はざれば、水源地の森林荒廢し降る毎に河川の汎濫實に言語に絶するものあり、かの北海道石狩川の如き開拓事業の漸く緒につきし明治の初年は、降雨十日に及ぶも嘗て濁水を見たることなかりしといふに反し、開拓事業の進捗するにつれ、上流地方の森林乱伐に次ぐるに乱伐を以てし、明治三十一年九月の大洪水に八百餘万圓の損害を蒙りしを初めに、その後年々洪水の被害を見ざることをなすといふ、只に河川の汎濫は石狩川のみならず、全國の河川に於て是れを見る、曩に政府は第一期河川改良工事費として明治四十四年より十八ヶ年の繼續事業にて、内務省所管の治水事業費壹億七千六百七拾四萬圓、農商務省所管の森林事業費壹千六百參拾餘萬圓の巨費を投じ洪水汎濫の防備に勉め、更に第二期河川改良工事費にて大正十一年度以降三十年迄の繼續にて、實に四億九千八百拾貳萬六千餘圓（此の中地方府縣負擔額壹億貳千六百拾貳萬七千餘圓）を投じ、全國五十七河川を改修せんとす、此の巨費を支出すること、國家財政上並に府縣經濟にとりて重大なる負擔なりと云はざるべからず、而して

此巨額の費用を投じたる結果は如何、余をして云はしむれば頗る寒心に堪へざるものありとす、何となれば一方森林政策なるものを見るに、公有林野に對する官行造林計劃、は大正九年より大正二十三年に至る十五ヶ年間に於て、地積三十三萬町歩の中二十萬町歩に對し人工植栽を行ふべく、國庫は八千九十六萬三千八百圓を支出することとなり、一ヶ年漸く壹萬三千六百六十餘町宛造林せらる、筈なるも、本邦現時の植伐關係を見るに、伐採は年々著しく増加し之れを大正元年と大正八年とを比較するに約九割の激増を示し、之に反し植栽は年々減少の傾向あり、大正二年と大正九年とを比較すれば約四割五分の減少を來せり、斯の如くにして植伐の權衡を得ざるが爲め山野の崩壞となり河川の汎濫を招致するは自明のことなりとす、見よ？河川汎濫のため最近十ヶ年平均四千五百萬圓以上の損害を蒙れるにあらざるや、當局官憲に地方人士に、堤塘の改修を喧々宣傳せらる、も、森林制度の不備を唱へ森林經營保護の必要を叫ぶもの少なきは實に本末輕重を誤るものなりと謂ふ可し。

又河川の流水と痛切なる關係を有するは水力による電氣事業にして、流水常ならざればその完全なる發達を期し難し、我が國は米國に次ぐる水力電氣國にして將來利用し得べき水力は約一千万馬力に達し得ると稱せられ、其の發展は極めて急激なるものあり

り大抵四年毎に約三倍の發展力を示す、而して發電の原動力として石炭による電力はもと水力より多かりし雖も、水力の發展するに從ひ其増加率火力を凌ぎ、大正元年末に於て略々同發電力數を示し、爾來火災は多く其數を増さず、大正八年末に於ける水力による發電力は六十萬キロ、火力によるもの約三十萬キロにして水力の二分の一に該る、況んや、石炭の埋藏量は僅かに八十億噸と稱せられ、現今の採掘状況より推せば五六十年にして盡くといふ悲境に當り、水力電氣の發展は誠に慶賀に堪へざる處なり。

水力電氣事業の最も希望する處は其流量に變化少きことなり、流水常ならざれば四六時中止むなき電力の需要に應ずべき水力は、之を利用すべき機會を失ひ、沿岸は洪水被害の防禦に又早魘の憂ひを救ふ邊なかるべし、不定時の降水を容れて良く之を調整し年を通じて流る、水をして比較的一樣に保持せんか、その水は直ちに電力と化して利用され發生の能率は最高を期し得べし、而して流水量に影響を與ふる主なる事項を擧ぐれば左の如し

一、流域の地形 地勢(形狀、高低)

一、流域の地質

一、流域の氣象狀態(降水量、氣溫、蒸發量、風向、風力等)

一、流域の林野狀態(自然林、人工林、原野、田畑の狀況、樹種、耕作物の種類等)

右の内前三者は天賦天資とも謂ふべきものにして人力の如何ともなし難き處なれども林野の狀態大に吾人に最も關係ある森林狀態に至りては全く人爲の左右し得る處にして、その良否は流水量に少なからざる影響を與ふるものたるは論なき所なり、然れども前述の如き植伐狀態にて果して今後水源涵養の全きを期し得、水力電氣の完全なる發展を望み得るや否や甚だ疑ひなき能はず、今後石炭石油の資源の減少に伴ひ、水力電氣の必要益々切なるものあるべく、豫想全水力一千萬馬力に比し更に一層の増加利用を圖り且つ動力費の低廉を期するには、水源森林の増殖を充分に圖らざる可からず、又我が國耕地の總面積は六百萬町歩なるも食料の不足を補ふため、農商務省に於ては曩きに耕地の大擴張を企劃せり、現今内地に於ける開墾の余地は約二百萬町歩にして現時耕地の大部分は河川の流域を利用せらる、も地方によりては水源汚し用水に困難を感ずる處少なからず、されば將來擴張せらる、開墾地も灌漑用水の道を圖らざるば水田の實を擧ぐる事能はず、故に是等水利の關係よりするも水源涵養森林増殖の忽緒に附すべからざるは明かなり。

如上 國土保安に治水に農業に工業に森林の間接的効用は、吾人の生活上に密接なる交渉を有するものにして、況んや森林の直接効用に於ておや斯の如く森林の合理的經營誠に切なるものあるに拘らず、その經

友 林 蘇 岐

營運々として振はざるは、林業は他の商業工業との趣きを異にし長期に亘つて資金の固定を要すること、並びに森林に對して金融の途無きに其困するものにして、茲に吾人が森林火災保險の必要を唱導し、森林に對して金融の途を開き、火災後の再造林に資金の調達を容易ならしめ、以て森林經營の實を擧げ森林の恩恵に浴せんとする所以なり。

今森林の賣買する、を見るに、土地よりも立木の方が遙かに高價に取扱はる、に拘らず金融の場合の擔保としては、土地の方は相當の價格に見積らる、に反し、立木は殆んど無價格として取扱はる、は頗る不條理なる事なり、然れどもこれは土地は火災の憂ひ絶對になくこれに反し森林の火災率比較的高きに依る此に於てか森林火災保險の必要を生ずる理にして、森林を保險に附し森林所有者の信用を高め其經營を容易ならしむるは、國家の經濟政策上頗る肝要の事なりとす、先きにも述べたる如く造林事業は、他の一般工業及商業と其趣を異にし資本の投下より其廻收まで長期間を要するものなる故、金融者より特別の援助を受け低利の資金を長期に亘つて融通する、の要あり、加之森林なるものは火災の危険率比較的高く、萬一火災に遭遇せんか數十年間苦心經營せし事業も一朝にして烏有に歸するの危険を伴ふもの故、保險者が此の危険を負担し企業を保證せざる限り、金

融者は之れに對し資本の融通を躊躇するものなり、故に森林の火災に對する保險事業の發達せざる限り森林事業の前途は暗澹たるものと云はざるを得ず、従つて實に森林火災保險事業は國家的事業と稱すべく、その發達の良否は國運の消長に至大なる關係を有するものとし、吾人はその完全なる發達を衷心より希ふものなり。(未完)

貴族富豪の林業方針に關する私儀 (承前)

松澤敏男

四、立地の關係を稽査しなるべく農業又は牧畜等他の地産業を兼營し土地產力の増大に努め併せて勞力の調節を謀るを要す
貴族富豪の經營すべき林業は既述の如く大團地なることを前提とするか故に當該林地に就き局所的に立地關係を稽査すれば必ずしも林業を以て一律するの適策ならざり場合尠からず或は平坦にして地味饒沃なる適農地あり或は山谷稍險阻にして良質の牧草を天生し從て放牧を適當とする箇所なきに非らず是等をして最も有効に其作用を働かしむるに於ては獨り資本家をして利益せしむるのみならず又以て國富を増進すること尠ならずとす
而して大團地に於ける農林業の兼營を一面より觀察すれば農地恰も林業に對する防火

帶となり林地は又農地に對し缺くべからざる防風帶の作用をなし兩々相俟て完全に其能力を發揮し得べく共に主たり難く従たり難き關係に存するは敢て吾人の贅言を要せざる所なり然かも亦牧畜が農業に取りて最も重要な位置を占むるは古來學者並に實地家の齊しく認識する所にして例へば肥料の供給を受ける點に於ても又耕耘に畜力を藉らざるべからざる點に於ても農業が牧畜に俟つ所のもの決して尠しとせず殊に國民の食卓に滋養豐富なる肉乳を供するが故に畜産事業の發達により國民の食料問題も大に緩和し得べく其興隆するに否とは國家經濟上に及ぼす關係亦至大なりと云ふべきなり然れ共是等地産業の鼎立を必要とする理由に關し吾人の特説を必要とする所以のものは又實に勞力の調節關係にありて存す由來我國の地産業に従事するもの、勞働賃金は甚だ低廉にして之を北米合衆國等に比すれば殆んど其十分の一なり勞働の低廉なるは一面に於て勞働力の堪能ならざるを表はし之を別言すれば勞力利用の途全からざること從て勞力効果の比較的尠なることに歸着す我農業者は僅かに五月より十月に至る六ヶ月間一日若干時間の勞働に従事するも十二月より三月に至る四ヶ月の如きは全作業を捨て、無爲徒食するもの多く之れ實に我農民の一般に窮困せず一大因由ならずんばならず、殊に我國の農業は歐米の如く農具の改善尙全からず又機械力を應用する

友 林 蘇 岐

こと尠く僅かに手先の小操作に過ぎざるが故に勞力を徒消し勞働の効果を大ならしむる能はざるが如きは實に甚大なる不經濟と云はざるべからず
茲に於て林業勞力の繁閑を調節するの必要上農業若くは牧畜を行ふを以て捷徑とす蓋し是等は同じく土地に基礎を有する生産業にして其勞働の種類も大同小異なるを以てなり

農業及林業に於て繁閑なる業務の互に重複することなきに非ずと雖も是等は多數勞働者を使役する大團地經營の林業に於て適當に處理すること比較的輕易の業なりとす然も彼の初秋農事閑散時期に於ける林木の撫育間伐事業の如き或は冬期田圃耕作の全く休止せる時期に於ける伐木運材事業の如き最も集約に勞力を調節し得る事例決して尠しとせず斯の如く勞力相互の融通は一面に於て常に連續的に勞働者を使役し得るが故に比較的低廉に然かも必要に應じて勞力を求め得べく他面又勞働者の收得を大ならしめ從て之を保護するものと云ふを得べし
五、林業經營上に要する設備は適切にして完全なるを要す

林業經營上に要する設備は多種多様なりと雖最も緊切肝要なる事項は森林の保護殊に火災に對する防備及林產物運搬並に交通設備なりとす
森林火災の恐るべきは敢て茲に喋々の贅言を要せず一朝にして數万金の山林を灰燼化

したる事例に乏しからず北海道の如き廣袤大地積に連亘する森林にありては到底人力を以て之を消火するに由なく徒らに大雨の到るを待つのみにして爲めに火災の猛威を振ふこと一ヶ月以上に及び巨萬の被害額に達すること珍しからず是れ大然林に於ける被害なるも人工植栽林に對し亦同様にして否寧ろ其被害の慘劇なるを思はずんばからず蓋し相當林齡に到達せる森林の火災にありては樹梢火若くは地表火等により全然林木の形骸を止めざるに至る場合稀有にして多くは尙体影を残置し爲めに被害木は其價格を低廉ならしむると勿論なるも尙幾分の收入を擧げ得べしと雖未だ幼齡なる植栽林の如きにありては全く其價值を滅却し數十年來投入し來れる多大の資金と經營上に費せし幾多の苦心は全然其余影を止めざるに至る

火災發生の場合に於ける消防の方法固より必要なるも吾人は森林の内外に於ける完全なる防火の設備を施して始めて消防の組織も其効果を發揮し得べきものなりと信す現今國有林に於て實行せる高さ一間の防火堤は若くは五間幅の焼切防火線の如きは烈風の場合に於て殆んど其効果を認め得ざるが故に將來は尙一層完全なる設備を必要とし殊に危険の甚しき方面に於ける平坦地にありては土質の狀況を稽査して農地を設けるが如き或は要所々々に火災見張所を設立し一朝有事の場合には電話により敏速且容易

に消防隊の派出をなし得るが如き設備を完全ならしむ、等森林火災に對しては根本的の企畫を必要とす
次に交通運搬設備の完全なること否とは林業の收益増進上至大の關係あること亦言を俟たず西歐の林業先進國に比し我國に於ける森林收入の尠にして殆んど比肩し得ざる一大理由は實に運搬機關の不良なるに原因せずんばならず運搬の設備には尠ならず資金を要するが故に現時の森林所有者殊に大部分の私有林主に於ては其防備を以て全然冗費と見做し取て之を顧みざるが如きは林業收利の増進と相反するものにして甚だ痛嘆すべき事項なり
夫れ交通運搬路の如きは一度相當の資金を投じて完全に開鑿するに於ては其後年々僅少の修繕費と開鑿資金に對する金利を要するのみにして運搬路其のものは財産として無限に存續し當該林分の收利に對し將來永久に貢獻するものなり然れ共是等は尠からざる資金を要するが故に小私林主に要望すること亦困難なる事情ありと雖も合理的企畫の下に完全なる施策を行はんとする貴族富豪の林業經營には最も肝要にして其實行を期すること必要なる事項なりと信す

六、貴族富豪の林業經營は地方の林産業を助長し自營事業の發達に貢獻するを以て其根本方針となし併せて林木經濟の大勢に順應するを要す
將來植栽すべき樹種の選定等は主として適

友 林 蘇 岐

地過木の原則に支配せらるゝものなりと雖然かも當該地方に於ける林産業の發達を助長し尙自家經營に係る各種事業との緊密なる連鎖提携を必要とし更に將來に於ける林木需要供給の大勢を洞察して施業の根本方針を確立せざるべからず故に當該林分に對する施業方針の決定は實に重大なる關係を有し又甚だ至難の業にして輕卒に之を決定するを許さず蓋し林業は他の地産業と異り百年の長計にして其方針に對する朝令暮改は最も之を忌むべきものなるを以てなり而して茲に地方林産業と稱するは其地方の特産として長き歴史的關係を有する林産物を意味するものにして例へば木曾の檜に於けるが如く秋田の杉に於けるが如く或は青森の に於けるが如く其名聲は廣く社會に喧傳せられ地方住民も其播種保護利用等に就ては他地方人の遠く及ばざる技術經驗を有するが故に斯る地方に於ける貴族富豪の林業經營に際しては聲譽をして永遠に持續せしむるの覺悟なかるべからず

次に貴族富豪經營の事業として林業に關係を有するは木材の化學工業に或は纖維工業に或は鑛山事業に其種類多々あるべきも自家經營に係る是等諸工業に對しては常に其資源の涵養に努め樹種及輪伐齡の選定等最も經濟的なるを要す、殊に鑛山事業の如きは木材を消費すること巨額なるのみならず木材は農産物其他の貨物に比し容積重量共に多大にして運搬力僅少ななるが故に鑛山需

用材の如きに對しては其附近に適當なる鑛山備林を具有して最も妥當なる經營を行はざるべからず、更に鑛山事業は社會經濟狀態の消長に感應すること頗る鋭敏なると共に事業の興起動搖すること多きが故に之に供給すべき森林の伐採量の如きは常に適當の弾力性を具備せしむることを必要とすべし之が爲めには或は施業上備林を設くるが如き或は利用林未利用林の限消を確立し置きて急迫なる巨額の必要に際しては未利用林の開發を行ふが如き技術的考案を必要とすべく是等は管理經營の任に當るものは勿論技術者の心すべきことなりと信す

最後に林木經濟の關係に就て一言せんに林業發達の経路は副産物即ち林木以外の林産物利用時代を以て其發達の初期とし農業稍發達し禁林の生産物によりて衣食住の資料の一部を必要とするに至り茲に第二期の燃料生産時代を現出、更に一轉して石炭の發見と共に各種商工業の勃發は第三期の用材生産時代を誘致するに至り而して將來に來らんとする第四期は各種工業の原料生産時代即ち工業原料として盛んに木材を消費するの時代なりと見做し得べし

之を西歐の實例に徴するも石炭コークス等燃料代用品の現出は燃料の實際的缺乏と相俟て年々薪材の消費量を遞減し最近に於ける森林の成育は尙工業原料の生産に努力しつゝありと云ふの状況なり例へば一八一五年巴里に於ける人口一人當り一ヶ年の薪

材消費量は〇、六棚なりしに五十年後の一八六五年に於ては〇、一五棚に減少し埃都維納に於ては一七八八年の薪材消費量三十万棚のもの百年後の一八八八年に於ては僅かに六萬二千六百棚に減少し伯林に於ては一八六一年より一八九二年に至る間に於て人口一人當りの消費量〇、三七棚より〇、一〇棚に減却せりと云ふ

而して我國民の家居飲食の風習は西歐諸國と異なるが故に前記の事例により直に之を引用すること困難にして從て木材利用變移の趨勢は必ずしも歐洲諸國と同一轍ならずと雖現時我國主要都市に於ける人口の増殖率と薪材輸入量の増加率とを對照せば一人當り薪材の消費量も年々遞減しつつあるを以て略々同様の趨勢なるを看取し得べし而して從來我國に於ける薪炭材の著しく低廉なりしは一面に於て其浪費を促し延て森林の收益を減少せしめたるものと云ふを得べく近來薪炭價格の異常なる暴騰は燃料節約の歸趨をして一層促進せしむべきにあらざるや我林業界の爲慶祝すべきことなりと信す

之を要するに我國の木材經濟の前途も從來の放逸なる燃料生産時代を去りて漸く用材に殊には工業原料の生産に努力すべき時代に到達すべきものと見做して大過なかるべきが故に大規模の林業經營に當りては須らく宇内の歸向を通觀し林木經濟の大勢を洞察して其施業の基礎を確立すべきなり

七、森林の更新は主義として自然力に

友 林 蘇 岐

準備し更に人工を以て之を補育助成せしむるを要す

獨塊に於ける林業界の趨勢として識者の傳ふる所によれば十九世紀の末葉以來勃然として斯界を風靡し來れる針葉樹の人工的純林作業熱は漸次緩和せられ天然更新を主体とする混溶林の形成を主眼とする趨勢に推移しつゝあるもの、如し即ち十九世紀の末葉より最近に至る迄人工植栽に係る純林皆伐作業は林業上最も有利にして且最も合理的なりと信せられ到る處長大なる輪伐期を用ひて専ら針葉樹純林の養生に努力せしも其結果過老林分は益々林相を閉し直射光線は自由に林内に射入して雜草荆棘等土地の荒廢を誘致すると共に風害並に虫害を惹起し然かも一旦火力の厄に會するや其針葉樹純林たるの故を以て頗る敏速に蔓延し甚しき被害の慘狀を來したるは獨り歐米に於ける實例あるのみならず我國に於ても同様の經驗を有する所なり然も特に注目を要すへきは近來林業上土地及氣候に關する研究の結果によれば自然力に背反せる人工的純林の形成は土地生産力を減耗し之を惡化するに夥しく土地の撫育は獨り數樹種の適當なる混溶によりて確保せらるべしと云ふに歸着するもの、如く本點に關しては造林學のマイル、ワグナー、諸氏も造林の要諦は天然力による更新法を以て主眼と爲すべきことを力説しつゝあり我國に於ける林業の大勢も從來著しく劃一的に針葉樹純林の

形成に傾きたるもの、如し近來林業先進者の善導によりて其弊害あるを認識せられ國有林の如きにありては施業方法着々改善しつゝありと雖稍大規模の私有林及公有林に於ては尙叙上の陋習に囚はるゝものあるが如く斯業に従事するもの、猛省すべき事項なり、地方の保存は林業經營上重大なる關係を有し之を換言すれば地方の永遠なる確保は林業保續の大精神に合致するものなるが故に林主は其經營方針として須らく本點に留意するを要す

由是觀是彼純林皆伐作業は收利多大なるの感ありと雖、地を荒廢せしめ延て各種の被害を惹起する點より推考せば林利遙に混溶林に劣るものと云はざるべからず殊に我國に於ける山野の地勢西歐大陸と大に其趣を異にし山地の相連起伏甚しく既に山腹と山脚とに於て地勢と地味と大差を有し從て是が適樹を異にするがゆゑに固より前項記載の大方針によりて施業の根本を確立すべしと雖向天然の力に準憑し局所的に適木をして點狀又は群狀に混溶せしめ地方の保全を企劃せざるべからず固より彼の荒廢せる過老林分又は粗惡なる未立木地及原野等にありては必ず適樹の人工植栽に俟たざるべからずと雖尙も適切なる母樹を存じ若くは萌芽林を有する目的樹の存する場合に於ては事情の許す限り天然更新を主体として適切なる補植を行ふ等人工的の補植を加へるべく冗費を節約して以て林業終局の目的

する林利の昂騰に努力せざるべからず

八、貴族富豪の林業經營は須く國家的觀念の下に施設するを要す

林業終局の眼目は營利にありと雖貴族富豪の國家並に社會に對する關係上須らく國家的觀念を持して林業の經營を必要とする所には既に本編緒論以下説述せる所なり故に如上の觀念を以て林業を經營し其目的を貫徹せんとするに當り自己所有の山林にして苟も左記條件に該當するものあらば該林分に對しては次に記述する理想と抱負を持して其實現を期せざるべからず

イ、社會公衆の公利公安を保持する上に於て普通施業を行ふは公益上不安とする林地に對しては之を保安林に編入し適切なる施業を爲すを要す

ロ、學術研究上其存續を必要とする高山植物の天生地若しくは公衆の娛樂上必要とする風光明媚の山岳林の如きに對しては之を保護林として一般施業を行はざるは勿論之に適切なる設備と妥當なる管理の方法を確立し前者は之を學術研究の資料に供し後者は之を開放して一般公衆の遊覽地たらしむるを要す

ハ、山林の適當なる地區を劃して狩獵場又は養魚池を設立し野獸及魚族の繁殖を計り業務閑暇の時期に於て所有者自ら狩獵漁獲を行ひ大に浩然の氣を涵養し或は貴賓珍客の款待には事

友 林 蘇 岐

情の許す限り當該林地に之を招じ高尚雄大なる趣味を普及するを要す
 以上列擧せる所により或は徒らに林業は娛樂の用具たるが如く誤解せらるゝ嫌ひなきにあらずと雖吾人の眞意は決して然るにあらず何となれば前記條件に該當する山林の如きは隨所に之を發見し得るにあらず全林地に對しては僅かに九牛の一毛に相當し極めて微少なるを信するに難からず斯くして全山林として何れも秩序的施業經營を行ひ所有者財産の永遠なる保續と増殖を確保するを得べし 以上

懷友錄 (二)

越 野 山 人

△前回は打テヨット書洩らしたが群馬縣にめる頃偶然にも土地の書肆山田といふ人と種々雑談を交はしたが此人は元鹿兒島縣で養蠶の技手か何かをやつてた由で我先輩園原氏とも相知れりとか誠に世の中は廣いようでも狭いものなり
 △先頃は又意外なる人に意外なる場所にて遭つた人は家高甚一氏處は月島渡船場何にしろ十何年振りであつたのと場所が場所だけ全く奇遇といふ奴であつた全君のいふ「僕は余り變らないと見えて何時も先方から發見される」と夫れでも當年のヤングボーイ今は化して農學校の先生とはなり加へて舎監といふ大役まで仰付かつてる君だ頭の方が將にビカ付かんや形勢に見わたが

友 林 蘇 岐

であつた然れば今でも東京に於ける故郷と思つて常に懐しく往來して
 通稱目黒の山林局と呼ぶ林業試験場は嘗て修學旅行に一度行つた事があつたが眞逆自分が勤務するとは夢にも知らなんだ實際目黒へ行つて林業試験場といつても分らぬ人がある山林局といへば直ぐ知れる
 茲は何しる世界の學者を以て任ずる人々にけに中々に英氣當る可らずだ、山人の前には先輩の岡西氏がゐた山だが其頃は若い大澤君がゐた何しろ仕事は夫々専門的に分れるので我々は其一局部しか分らぬ夫れに氣永の研究許りであるから根氣と研究心の旺盛な事を要する其代り最新智識を得ることは無限なものだ當時は我部は次第に見限りを付けて他へ轉してしまつたが最後まで踏止つて遂に榮冠を搔ち得たものに我松島君がある
 此處でも例の三すくみの活劇が演ぜられたが舞臺が大きいだけに自然消滅を見た然し駒馬出でないものは先づ見込のない處だ
 △思出多き若狭
 大正八年二月恰も流威が猛烈であつた頃情ある博士の手により西の方福井縣へと轉じたが時利あらず一年七ヶ月にして再び關東へ舞戻つた
 由來越前の地たる天候の關係より人情甚だ陰險にして且排外心強く恰も山人の赴くや技手級にては始ての他國人として大に白眼視されたものだ其後長野或は鹿兒島等より

實に時代の變遷は恐ろしいもんだ
 △先の便りが眞物となつて櫻の濟んだ頃又々神作君と會つたが話しは同窓の噂ばかり全君は目下民間製材に従事大に怪氣燦を擧げてゐたが何れ又近き將來に於ては郷關を捨て、大々的活動をさるゝ意氣込みである好漢大に自重せよだ
 △最後に一言辯明して置く夫れは前回に於て神作君は四十云々の事であるが實はアノ宿の婆さん少し眼が悪いので眞逆四十はチト甚しいと思ふ然し女子は若く見られん事を望み男子は老けて見られんを良しとするのだから全君たるもの聊か慰安して呉れ給へ其代り當年二十七才未だ獨身の好男子であることを保證して置く呵々

放浪漫談 (續き)

越 野 山 人

○秋の夜は又所謂北斗七星も間近に仰ぎ伏しては關東一面に亘りて電燈の煌きははし實に燦然として轉々自然の美に感服する許りである斯の如き生活は大正五年より大正七年迄毎年夏繰返された先づ大己貴命を祀る祭祠はあるが山の大将一人といふ所恐らく我一生を通じて又となくライフであらふ因に此生活は勿論自炊であるが水は雨樋を利用し唯飲用水だけ隔日に人夫に運ばせるのだ夫して山頂などでは平地より水の加減が大事であるが十月の候になると折々野菜などを氷らしてしまふ事がある

何分人間界を離れてるので午幣などはモロに懐しく偶に登山者でもあれば人の聲が實に嬉しい
 確か大正六年と思ふ恐れ多い哉先達佛國の旅より御痛は！き悲報を齎らし給うふ北白川の宮にも御登山に相成り畏くもカケ茶碗にカケ急須でお茶を差上げた光榮もある
 此の山の事は嘗ても書いたが毎年夏と秋とお祭りがあつて前季には男子後季には女子の登山を許し男子の時などは一萬人を數へ全山(といつても表裏の參道だけだ)白衣を以て埋まる事がある
 但し其他の時人は稀にして退屈の時はお出で大聲疾呼すれば木靈に響くのみ珍らしき小鳥などは危く山人の鼻先に止らんとし時には兎公まで駆出して宛然大國に遊ぶの感あり

眼下には幸の湖に網引く舟の集ふあり高山に登れるものは誰しも見る處であるが水の深味は色により判然區別さる又面白きは地引網を水中に明かなるは意外にして成程鳥類が空高く水中の魚を求むるも宜なる哉此他牝鹿戀ふ牡鹿の聲を聞くことあり自身鹿に出會した事もあり夜足尾の爆音に驚いた火災を見て地獄を想像したり記憶を辿れば中々に盡きない
 △目黒の古巢
 筈と不動さんで知られる目黒は近來又競馬で盛んな事だ山人の目黒生活は大正五年秋から八年春迄であるが是亦愉快なる生活

兩三人來たが何れも此點には閉口させられた
 夫れに不幸にして中心勢力を握る五といふ男が田舎にはよくある縣會議員の叔父さんを笠に盛んに暗中飛躍をやつたので流石の技師大人も手が出せず何れも輸人人はゾロゾロ逃仕度にかゝつたが此度は盛岡閥が生れつゝある
 然しながら山人の擔當は重に若狭方面にありたる關係で彼の陰鬱なる越前とは其趣を一變する明き若狭に出張することは唯一の慰安でもあつた
 實際此西國は同一縣下にありながら全く其空氣を異にするのである彼の風光明媚なるに濱港や白砂青松の高濱灣など今も思慕の念禁じ難い
 因に若狭には先輩福田氏ありて大に會門の爲めに氣を吐いて居たが今や亡し噓!

林友誌に就て

越 野 山 人

三月號に於て林友が校正しない點は了承したが然し我々時代のものど較べて確に間違の多い事は争へない
 夫れは兎も角として一つ左記の注文をしたと思ふ
 一、林友の發行獨立經濟とする以上之が校正等に從事する者をして有給とする事
 二、其爲めには林友代金は前納制度に改め又卒業に際して何年分など、いふ事なし

早春の憂鬱

三原忠一

南天が咲く、椿が芽を吹く、斯うして丘の上には暖かい春が蔭鬱な冬日の帳を離れて巡つて來た、どんより曇つた大空を仰ぎながら幹彦は未だ燃わ出た許りの柔らかな身の上に身体を横たえて何かしら深い瞑想に耽つて居た、直ぐ向ふの梢では、名も知らぬ小鳥が頭を揃けて鳴いて居た幹彦は黙つて其れを聞いて居た、直に頭の横を流れて居るせゝらぎの響も何事か寂しい暗示を幹彦に與へるのであつた、彼は藝術を考へ過去を思つた、斯うして新純な自然の中に化つて永遠を想ひ、永遠に對する藝をも考へなければならなかつた。

に毎年未確實に集金郵便にて徵集されたし
 三、斯くして脱字誤字等の不面目を一掃されん事を望むと同時に其編輯内容に於て(輪湖氏のものにより)
 い、毎月發行可なり
 ロ、研究校報會報及會合學生記事雜錄消息等とし文藝は全廢すること
 實際我々校外者としては研究物の參考になるは勿論友の消息も亦甚だ懐しきものなり否前者の學生諸子に資する事や實に大なるものあると確信す然れば卒業生諸賢も亦自己の尊き快談を惜しむ事なく盛んに誌上に發表されん事藝に松館氏の述べられた通りである終りに原稿氏の制定を望んで 擲筆

「人生に永遠がなかつたら、藝術も、宗教も、哲學も、戀愛も凡て、何にもないのだ」幹彦は見るともなしに空を見詰めたが、そんなことを淋しく考へた。

荒れ果てた人間の心を、古しへの純情にかけらして呉れるやうな小鳥の歌聲も止んで見上げた梢には小鳥はもう居なかつた。

「考へるのも寂しい」幹彦は堪らない憂鬱を感じて立ち上つた。

春だ、なつかしの春だ、いとしい藝術の潜む春だ、凡てが若い春だ。幹彦は歩むともなく静かに歩いて居た。

そしてつい兩三年前六甲の深山に走つた伏見のことなど考へるのであつた。

伏見があらゆる苦惱から去つて、六甲にかけたこと、戀愛に破れたこと、其の破戀の破が今日彼の宗教藝術を興へた母であつたことなど泌々と考へた、そして自分までが暗然とせずには居られなかつた。

「人と愛慾」それは所詮永遠に同素であらねばならないと思つた、そして自分の永遠藝術は戀で伏見の久遠に輝く宗教藝術だと思つた。

藝術か、愛か、永遠か、無限か、斯う考へた幹彦は堪まらない哀寥を感じずには居られなかつた。

伏見は眞實に總ての理想と現實との相違せるに就て充分考へて居たのであらふか、幹彦は然らう考へて鬱然とせずには居られなかつた。

丘の上の永遠藝術

六甲山嶺の宗教藝術

幹彦は寂しいコントラストだと思つて涙ぐんだ、人生を考へ、藝術を瞑想すること、幹彦には無上の慰めであつた。

邊りには何時しか鬱然とした黄昏の暮色が迫つてきた。

幹彦はまた思ひ出したやうに歩き出した。

第二學年修學旅行日記

五月十日 自 木曾福島 至 江ノ島

樂しき夢に憧れし吾等は木曾路の關を破りて響く一聲の汽笛と共に愈々修學旅行に出發しぬ。吾等の喜びは車窓より車窓に晨の希望に満ちたる空氣と共に聲高らかに傳り行きぬ。友の喜びは吾に移り吾が喜びは又友に移りぬ。嗚呼十日の晨未だ深し懐しき福島町の燈は關の中より吾等の旅行に幸多かれと祈れる如く見ゆ。

數多の夢を乗せていつしか木曾の山路を離れし長蛇の如き吾が列車はほのぼのと明け行く空の下を濃尾平野に入りぬ。

心に掛りし天候は夜の明け行くにつれて霽れ渡り紫雲の輝ける間より日は微笑みて昇りたり。袂き朝なり、車窓に迫る青麥の野は吹く朝風に緑の波打ちて限り無く連り、其の間に點綴せる農家の様も捨て難き景色なり。

五月十一日 自 江之島 至 東 東

夜は明けぬ。露多き江之島の朝。吾等が頭上の緑は今日の幸を祈る如く語るもの、如くに見ゆ。起きよ友！夜は明けぬ。希望に満ちたる朝は來りぬ。

鎌倉驛に集合の約束にて午前中自由行動となり。

なりたり。四邊波治まりて岸に破くる細波又細波。暫く其の興味に感じ入れる折細雨降り來りて景色益々優しく眼に入る。電車にて鎌倉迄行く者あり。又七里ヶ濱の寄せては返す波打際を徒歩するものもあり。

鎌倉には名所舊蹟頗る多し。その昔の影は鎌倉の天地に刻み付けられてありし日を静かに物語る。鎌倉發午後二時。横濱もいっか過ぎて家は漸く多く大なる建物建々に聳つて懐しき憧の都は展け行きぬ。午後四時東京驛に着す。驛前なる海上ビルディングの大建築物先づ目を驚かしたり。電車自動車は絶え間なく通り人出は恰も祭りの如く。かくて吾等は東京の土を履みぬ。大審院、帝國劇場等を左に見て楠公銅像に急ぐ。噫忠臣楠公は死して後も尙銅像となりて宮城を守護し奉れるなり。二重橋前に並びて遙かに大君のます緑深き宮城を参拜し奉る。それより櫻田門を通りて日比谷公園に至り少憩の後神田區北神保町一一番地重陽亭に旅装を解きぬ。

五月十二日 東京在

目黒林業試験所に向ふ。入口より所内の庭には到る所に名も知らざる樹木美しく植わられたり。案内を乞えば我々卒業生大井吉日兒君他二三名來りて案内す。種々の木材の標本數多ありて枚舉に遑あらず。第一第二温室には珍らしき熱帯植物あり。第一第二……と苗圃を廻れば足頗る疲れたり。此處を去りて駒場農科大學に至り晝食しぬ。

なり。名古屋ステーションにて東海道線に乗換ふ。時に朝の六時頃なり。

中央線のマツチ箱に引換へ東海道流車の乗心遣はる車窓によりて眺むれば海の波の穩かなるも吾等を迎へるもの、如し。紺碧の海の遠近に浮ぶ白帆の影も春の凡てを語る如くのごかなり。天龍川、濱名湖の景色も夢の間に後となりて九時中泉驛に着す。

静岡縣立中泉農學校參觀 驛より約五六町の地にあり。校門前に暫時憩ふ。校門前なる農場には剪定整枝されたる果樹多く植はる。職員案内にて門に入る。庭一面に咲き競ゆる草花頗る麗し。先づ第一に自彙館に導かれ當校の校規を承る。その主義の貴き堅固たるは嘆賞すべし。それより講堂、參考室、養蠶室並びに製茶場を一覽し寄宿舎にも案内せらる。あ、流石は名高き模範校なり。見るもの聞くこと悉く感嘆の聲を發せしめざるものなし。學校を辭し再び東海道線にて走り午後七時相州江之島金龜樓に投ず。今日は旅行第一日の事にて、元氣旺盛に就け共或は語り或は笑ひて容易に眠られず、とかくして漸く夢路に入りぬ。

ふべからず」とか。實にや表門、陽明門、唐門、拜殿其他眼に寫るものは總べて金銀の色眩ゆく。丹青の美しさは云ふばかりなくして眞に聞きしに勝る其の華麗さは結構そのもの、形と云ふも過言にあらざるへし案内人につきて一わたり見物して暫く休憩所に憩ふさきの人吾等の爲に羊羹を購ひて旅の疲れをねぎらはる同氏の好意感謝にたへず。これより馬返まで新緑の参差たる道を電車にゆられ。馬返より徒歩にて約二里許り紅白の躑躅の満開せる四邊の景色を賞しつ、山路を上。て午後五時頃漸く中禪寺湖畔に達したり。先づ名高き華嚴瀧を見物してその壯觀に目を眩りぬ。靜かなること鏡の如き湖水は懸つて巨瀾轟然として地軸を驚裂する直下四十五丈或は七十五丈とも云ふの大飛瀑となり岩角を怒撃して玉瑩き珠跳り、雪飄へり、花舞ふが如し、やがて我等は瀟の如き湖畔なるつた屋旅館の二階に疲れし身体を横たへぬ。目下せば湖上波靜かにして今二三のモーターボートの遊覧客のせいで歸れるあるのみにして、他には漁火なく亦棹歌なく微茫なる湖に夜の雲しのびやかに這ひ行きぬ。樂しき旅行も早後二日となりぬ。此夜今迄幸ひに一同無事なりしを祝し又併せて残れる二日の幸福ならんことを祈りて茶話を催す。皆々旺盛なる元氣を以て旅の疲れを驅逐し此家も居れよと許り大いに歌ひて十時頃寝に就きぬ。

五月十四日 自 東京 至 中禪寺湖

名残りは盡きぬ都を後に午前七時上野驛を發して日光に向ひぬ。車窓より刻々遠かり行く東京を眺めし時何とほなしに離れ難くして悲しかりき。噫々今後再び都を訪れんは何時の日にや！さらば都よ！お、さらば大東京よ！春は正に酣なる此頃瀛車は各校の修學旅行團にて満員の爲吾等は連日の東京奔走に疲れし足にて更に日光まで立盡さるべからざる憂目を見ぬ。三時間餘にして日光驛に着し直ちに東照宮参拜に向ふ。入口にて本校第十三回卒業生の一人に會ひ連立ちて見物す。「日光を見ずば結構と云

先輩諸氏の甚深なる厚意を謝す。十万町歩以上ありとか云ふ農場を眺む。學生は正午より五時迄實習すと云ふ。見本園には寒帯の植物より次第に温帯熱帯と植林してありたり。熱帯の植物は廣大なる温室にありて内部に入れば恰も熱帯地方に行きたる心持す。大運動場にては今明兩日全國中等學校の運動會あり。暫く見て去りて明治神宮に参拜す。後は自由行動なり。直ちに宿へ歸る者あり。或は泉岳寺に参り、四十七士の墓を訪ふものあり。或は淺草へ或は上野へ或は銀座へと思ひ／＼に回散す。

五月十三日 東京在

今日は一日自由行動なり。各自朝早くより見物し残したる所を訪ね廻る。夜各室共明日の出發準備に忙し。

五月十五日 自 中禪寺湖 至高 橋

六時宿を出て湖上を三個のモーターボートにて横断したるに頗る愉快なりき。霧の如き雨の降る中を山路三里突破して足尾に着く途中の山々の濶葉樹など悉く枯れて太き幹のみ空しく突立てるは鑛山の亞硫瓦斯の爲ならんか。とある店に休みて晝食し足尾銅山を參觀す。現今此銅山に働けるもの約六千人とか専用の瀛車ありて鑛石を運びコンパター送風機其の他大なる器械は皆吾等の眼を驚かせしめざるものなかりき。それより鐵路高崎に至り驛前なる高崎館に投じぬ。夜活動寫眞など見に行く者あり。

五月十六日 自 高 崎 至 木曾福島

明くれば十六日今日は旅行最後の日なり。樂しき旅も今日一日にて終るかと思へば疲れたる身ながら名殘惜しく、「今五日もあらばよし」など、慾張るものあり。正午近く長野にて下車し直ちに善光寺に參詣す。打ち見たる伽藍の様も有難げに時々鳴り渡る鐘の響は吾等の心の惡を洗ひ去る如き心地す。多數の善男善女の群にて頗る賑しこ、にて午後三時工業學校集合の約にて解散す。晝食するものあり。近き學校の友を訪ぬるものありやがて三時は來ぬ。工業學

校に集合せる吾等は職員に導かれて機械科電氣科、應用化學科一年二年の實習等を參觀したり、縣苗圃はこ、より二里も隔てる地にありと聞き時間の都合もあり、亦疲れたる身体には餘りに遠ければ止めたり。こゝにて土産など求むる者ありやがて吾等は木曾福島行の列車内の人となりぬ。瀛車の進むにつれて夜の帳は靜に四邊に垂れいつしか吾等は旅の疲れに快き夢路に入りぬ。十時頃木曾福島に着したり。一年生諸君を始め多くの人に迎へられ雨降る中を樂しく土産話に花咲かせつゝ、それゝ家路へと急ぎ去りぬ。(終り)

景 報

校友會便り

大正十二年度校友會役員(正副部長)は五月二十三日左記の通り任命されたり

庶務部	正 井出 進	副 今井 一
文藝部	正 井戸 市郎	副 征矢 辰三
辯論部	正 小野 久孝	副 原田 稔
雜誌部	正 村上 頼	副 吉田 邦男
劍道部	正 新井 深美	副 吉田 邦男
柔道部	正 新井 深美	副 吉田 邦男
武道部	正 新井 深美	副 吉田 邦男

弓術部	正 米倉 寬	副 中村 幸
庭球部	正 大内 隆	副 若井嘉久太
運動部	正 蜂谷 晃	副 原 義治
運動部	正 二木 清勝	副 海老澤恒雄

謝恩金募集廣告

先月號を以て報知致し候通永々本校にありて百英に従事専心母校開發校友會の發展等に盡力せられたる小貫先生荒木先生吉川先生には夫々御榮轉被遊本校としては遺憾措く能はざるも又御一身の爲己むを得ざる事と存候就いては御在任中の勞に酬ゆる爲又教導に對する謝恩の意味より謝恩金募集致し度候間何卒諸君の御賛成を得度御願申候 追而 九月三十日頃迄に本校内西澤靜人宛に願ひ度候

編輯者より

本月號は編輯部の都合にて大變をくれました、是非取返すつもりです。特別廣告にて四月號より新制度に致す様申上げて賛否を尋ねてゐましたが、校長病氣にて其仕事進捗せず又問題は慎重を要するにより少しの間在來の形式に依ることになりました猶御意見の開陳を希ひます

大正十二年六月廿三印刷 大正十二年六月廿五發行

長野縣西筑摩郡福島町八五番地 編輯兼發行人 安井正夫 長野縣松本市小柳町八五番地 印刷 人 淺川吉藏

長野縣松本市小柳町八五番地 印刷 所 淺川印刷所 長野縣西筑摩郡福島町八五番地 發行 所 澤澤書店

【定價金參錢】